

特別枠 多頭飼育崩壊現場支援報告書



申請 No11

申請日：2017年1月23日

場所：東京都中野区 実施責任者：A氏

協力団体：中野区南中野地域ねこの会／渋谷区代官山あいごネット／
渋谷区幡ヶ谷ワンネス・ヒトネコ連

居住環境：3階建ての持ち家

居住者：夫（50）、妻（48）、長男（17）、長女（15）の4名

生活保護の需給状況：受給していない

申請から不妊手術完了までの経緯（報告書より）

平成28年5月頃、当事者宅付近で糞尿と大量エタノール臭の苦情相談が多く寄せられていたので、現場調査に入りました。調査開始後1月ほどで、臭いの発生源が確認できました。その発生源となっているお宅の奥様とお話しする中で、多頭飼育であることが判明しました。

最初は2匹だった猫が70匹以上に増え、近親交配も進んでいました。飼い主側は、避妊去勢手術をしなければいけないという認識も低く、また頭数が急激に増えるとは思ってもいなかったようです。猫の餌や治療費などの費用に追われる毎日で、掃除も行き届いていない状況の中、糞尿の悪臭、ダニの大量発生により家族にアレルギー症状が出ていました。悪臭により近隣からの苦情もある中、不妊手術費用はおろか、子供たちにもかけるべき費用も捻出できず、誰にも相談できないまま、様々な問題を抱えることになり、当事者は精神的に追い詰められていました。この状況から、支援の必要性を強く感じ、申請に至りました。

近親交配による子猫は丈夫に育たず里親に出せる状態ではない為、里親ボランティア団体からも断られているような状況でしたが、手術後、全ての猫を飼い主が終生飼育することを希望したので、里親には出さず、ボランティアがサポートに入ることになりました。

その後、12月にメス4匹を手術し、本年2月末までにオス2匹、メス4匹の手術を予定しています。

不妊手術頭数

手術日	オス	メス	妊娠メス	耳カットのみ	計
10月13日	26	43	4	1	74
10月14日	1				1
合計	27	43	4	1	75

どうぶつ基金負担：不妊手術

現場写真



今回の取り組みを振り返り、改善すべき点や今後の配慮事項（報告書より）

多頭飼育崩壊は大きな社会問題であるとの認識を強く感じました。当事者だけの解決は不可能です。どうぶつ基金さんの心強い支援とボランティア、地域住民、行政の支援が必要であり、当事者の精神面のケアが大事です。地域から孤立させないように、渋谷区・中野区のボランティアが今後も支援してきます。

どうぶつ基金スタッフメモ

どうぶつ基金に寄せられる多頭飼育崩壊の相談は、日々増えています。その多くが貧困、独居老人、心の病などの理由で生活保護を受けたりしているため行政職員やケースワーカーが家の中に入り、実態を把握しています。しかしながら猫の多頭飼育の問題になると見て見ぬふりをしたり、「里親に出せ」「オスとメスを分けて飼え」など、当事者には無理な実効力のない指導をして、結局あれよあれよという間に数匹が 数十匹になり、問題がさらに深刻化しています。それでも行政は地元の小さなボランティアグループに丸投げというパターンが多くみられます。多頭飼育崩壊に陥った家は憲法 25 条で保障されている「健康で文化的な必要最低限の生活」をはるかに下回った悲惨な状態であるのは明らかです。行政は正面からこの問題に向かい合ってほしいものです。